養父市立八鹿小学校　学校便り　　令和５年７月３日発行　第６号

R5 八鹿っ子

【八鹿小学校 HP】 http://yabuboard.ed.jp/youka-es/
【八鹿っ子ブログ】 https://youkakocho.fc2.net

～ふるさとを愛し　自らを高め　未来への道を切り拓く　八鹿青渓っ子の育成～

自分で決めること

□　ご家庭での「そうあんくんの日」の取組へのご協力、ありがとうございます。今年度は**「自分で考えて、よいと思うことをどんどんしよう」**というテーマのもと、子どもたち自身が**自分で決めること**を大切にした取組を進めていただいているところです。

□　自分で決めることは、子どもたちにとっては予想以上に難しいことのようです。担任制廃止などの教育改革にいち早く取り組んだことで知られる千代田区立麹町中学校元校長・工藤勇一氏は**「自己決定させないでいると、うまくいかない時に人のせいにする子になる。自己決定させることができるかどうかが子どもたちの主体性を育む最大のポイントだ。」**と主張しておられます。

□　「そうあんくんカード」を読ませていただくと、子どもたちが自分で決められるように、ご家庭でも様々なくふうをしながら支援していただいていることがわかります。

「お家の人からの一言」より
- お姉ちゃんに相談しながら、自分で考えてがんばれました
- 何をしようか、自分からさがして“これはどう”といったやりとりができました
- 下の子がいるので、小さいことでもお手伝いはとっても助かるし、自分で考えてくれたり、何をして欲しいか聞いてくれてうれしかったです
- まだ自分で何をするのか決められないけど、こういう事はどうか？と提案するとその中から決める事はできます。
- 目標を自分で決めて、目標に向けた内容も自分で考えて取り組めました

□　以前、本誌面でも紹介しましたが、**「発達の最近接領域」**という考え方があります。子どもの発達には「ひとりではできない領域」と「ひとりでできる領域」の間に、**『支援者がいればできる領域』**があるという考え方です。最近接領域を意図的に設定する事で効果の良い成長が望めると言われています。この領域における適切な支援のことを**「足場かけ」**と言うそうです。「できる」と「できない」の間には「だんだんできるようになる」段階が必ずあります。

□　「自分で決める」ことについても同じように最近接領域があるのでしょう。上記の「お家の人からの一言」にある“やりとり”や“相談”、“選択肢を与える”等の記述は、ご家庭で最近接領域を設定し、「足場かけ」を行なっていただいていることの現れではないかと思います。段階を踏んで子どもたちの自己決定を支援していただいているのです。

□　７月・８月の東井先生の言葉は

自分は自分の主人公　世界でただ一人の自分を創っていく責任者

です。「自分は自分を創っていく責任者」という言葉は、八鹿小学校発でありながら全国の教育者たちが知っている、あまりにも有名な言葉です。広島大附属小学校の研究会に参加した時に、教室の前面に学級目標として掲示してあるのを見て感慨深い思いになったことがあります。

□　I was born.　生をうけ、命を授かり、受け身型で生まれてくる子どもたちが、「自分は自分を創っていく責任者」という極めて主体的・能動的な存在としての自覚を持てるようになる。だんだんそうなるように子どもたちを育てていくのが学童期なのだと考えます。

■　サンデー西村の出張音楽会　　６月 16 日

バイオリンの演奏体験をさせていただきました

松竹芸能株式会社よりサンデー西村さんら 3 名の演奏家に来ていただき、「サンデー西村の出張音楽会」を開催しました。バイオリンとソプラノ、ピアノにより奏でられる美しい音楽にふれ、生演奏の素晴らしさを体験することができました。子どもたちは、身を乗り出して 3 人の演者さんに釘付けになりました。いっしょに歌ったり、足を踏み鳴らしたり、手拍子を打ったり、笑ったりと大喜びでした。演奏に合わせていっしょに校歌を歌う場面では、体育館中に子どもたちの声が響き、演者さんたちと全校生が一体になった感じがしました。このような機会に、演者さんたちへの感謝と敬意をもち、心から楽しむことができる八鹿っ子は本当に素敵な子たちです。

会場は音楽と笑顔と熱気でいっぱい

■　６年生の中学校登校　６月 20 日

中学校の「貫徹掃除」を体験

小中一貫教育を推進する八鹿青渓校区では、６年生による中学校登校日が１年間に３回設定されています。中学校生活を体験することにより、不安を軽減し、見通しを持って進学できるようにする取組です。６年生は美術や英語、数学等の中学校の先生の授業を受けたり、中学生といっしょに掃除をしたり、部活動を見学したりと丸一日を中学校で過ごしました。

他校の6年生とも交流を深めました

６年生にとっては、初めての環境で生活する濃密な１日になりました。少し未来の体験をした１日です。多くの刺激を受け、１年先の自分を考える機会になりました。

■　命は一つ

山根千秋先生書

本校では東井義雄先生在職中より、半世紀以上にわたって「命は一つ」の言葉を大切にしてきました。創立 150 周年を迎えた今年度、学校運営協議会副委員長の山根千秋さんにお願いしてこの言葉を新たに書き直していただき、各教室に掲示しています。

東井先生は、一人一人の子どもたちがもつ、かけがえのない“奇跡”とも言える「命」を見失ってはいけないと教えられました。さらにその「命」は、「父母をはじめ、目に見えない大いなるものによって生かされ、願われているいのち」だともおっしゃいました。創立 150 周年を超えても、本校ではこの教えを大切に繋いでいきます。新しい「命は一つ」の書は、その決意の象徴です。

■　ＰＴＡ資源回収

７月２日（日）にはＰＴＡ資源回収が行われました。地域・保護者の皆様にご協力賜り、たくさんの資源を回収することができました。収益金につきましてはＰＴＡ活動資金として子どもたちの健やかな成長のために有効に活用させていただきます。温かいご協力に心より感謝申し上げます。

■　「児童引き渡し」についてお礼とお詫び

６月 29 日、３～６年生下校時の雷雨により、児童引き渡しを行いました。各家庭におかれましては、急な引き渡しの要請にも関わらず、豪雨の中を迅速に対応していただき誠にありがとうございました。また、バス通学児童についてはバスにより下校した旨の連絡が遅れ、大変ご迷惑をおかけしたことを心よりお詫び申し上げます。申し訳ありませんでした。今回の引き渡しの反省を踏まえ、危機管理体制のさらなる強化を図ります。